YAS Yukigaya Active School 〜常に動き続け、「積極的・自発的」(active)に「より良い学校」を目指す〜

【目指す生徒の姿】 1)自己や他者の良いところに目を向けることができ、自己肯定感が高い生徒 2)コミュニケーション能力、表現力を持ち、他者と協働できる生徒 3)学力・体力の向上を目指し、ねばり強く努力する生徒 【目指す学校教育の姿】 1)わかりやすく、生徒が主体的に学べる授業 2)様々な個性を持つすべての生徒に対する温かく根気強い支援 3)保護者の思いを理解した、良きパートナーとしての誠意ある連携

大項目	自己評価及び学校 目標	交関係者評価の結果の概要と改善策 取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成	果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価人		保護者アンケート回収率 51.19 学校関係者記入欄 コメント
→		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション・能力の意	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。		学校評価アンケート	4: 1 80%以上 2 80%以上		生徒項目1「学習の中で、タブレットなどを使うことは、自分の勉強の役に立っている」への肯定的回答は88%であった。	<u>н і ІШ</u>		・タブレットの活用が定着してき た。また、リモート授業にも問題 なく生徒が参加できていたと思
ノラ・	コシ情力きれ会な応の身すニョ報、るかのやす力に。二能活も等の化に子自けてが能生これに対ど信ました。	国の方々とのコミュニケーション能力の育 成等を図っている。	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒項目1 「学習の中で、タブ レットなどを使うこと	2 80%以上		成果指標「4」にあたるほぼ9割の生徒が、「自分はICT機器を活用して学習することが勉強の	A 9	9	われる。 ・コロナ感染拡大防止のための
1		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、 「おおたのものづくしたはか」たは緊急動	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	1	は、自分の勉強の役に立っている」			役に立つ」と感じていることがわかる。雪谷中学校では、昨年に引き続き、1人1台配布された生徒用タブレットを、全教科の授業で活用してお			対策として急遽整備されましたが、対面コミュニケーションや学習の補助ツールとして大変有益
 未 来		「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	 生徒項目2 「授業や学校生活	3: 1 70%以上 2 70%以上		り、生徒たちもスムーズに活用できている。タブレット端末では生徒たちは様々な学習や作業に取り組み、現在は基本的な操作に関してはかな			であり、また益々今後発展する CTを早い段階で学び、身につ けるきっかけとなったと思いま
社会		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。	- 4 す	で、友達と話し合ったり、協力しながら活動 することができてい る」 に対する肯定的回答 の%			り習熟している。引き続き活用を続けることで、技能の習熟を図りたい。	В	0	す。 ・ 生徒が楽しくタブレットを活用し
ー を 創			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。					生徒項目2「授業や学校生活で、友達と話し 合ったり、協力しながら活動することができてい			ている姿を見ています。効果的に活用されていると思います。 ・生徒1人に1台タブレットを活
造 的		他者の人権を尊重する人権教育の推進を	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。			1 60%以上		る」への肯定的回答は95%であった。 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をしつつ、徐々に授業ではグループ			用することで主体的に取り組むことに繋がっていると思います。 コロナ禍後もICT機器をさらに
生		目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	$\frac{1}{2}$ 4		2 60%以上		ワーク等の班学習やペアワークを行っている。 自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞	C	0	活用することは、どんな状況であっても学びを継続するできる
		仲ク」/ハドシントロ末と唱みん仲ク」門工工件	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。					く活動を行い、対話的な学びの実現に務めている。また学級活動や行事、部活動など、学校生活の様々な場面で、友達と話し合い、協力して、			学習環境がある、という安心があります。ツールをうまく使うことによって理解が深まったり、
子 供			2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	$\frac{1}{2}$ 4		1: どちらかが 60%未満		目標を達成する活動を大切にしている。 それらの活動によって、多くの生徒が「行事等 後の達成感があった」「自分の意見が前提の意			表現の幅が広がったのではないでしょうか。とても興味深いです。
の 育		動等で、他者と話し合ったり、協力しながら		1				見として反映されている」と感じている(面談・面接練習等での聞き取りより)。 今後も他者を尊重し、協働する活動を推進し、	D (0	
成		活動する場面を設定し、コミュニケーション 能力を育成する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				生徒のコミュニケーション能力の向上に努めたい。			
	児童・生徒一 とりの高 とりの高 欲をなかる なかなさ かます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一 人ひとりの学習のつまずきや学習方法に	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。	4	学校評価アンケート 生徒項目3	4: 1 80%以上 2 80%以上		生徒項目3「前向きに学習に取り組むことができている」への肯定的回答は86%であった。 各教科で学習の仕方を指導し、定期考査前にはまと		,	・夏休みのPTA主催自習教室 では、前向きに学習に取り組ん でいる生徒の姿をみることがで
		スのとりの学者のつますさや学者方法に ついて、指導する。	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		上促頃日3 「前向きに学習に取 り組むことができてい			めの資料を配布するなど、生徒が学習しやすいよう支援している。また、連絡ノート「忘れないぞう」に学級担任がコメントを記入することで学習や生活への助言を	A 8	8	き、今後も応援していきたい。 ・個人差はあると思いますが、 全体での授業は一人一人が自
プ		算数・数学到達度をステップ学習チェック		3	る」 生徒項目4	3: 1 70%以上		行っている。個別支援としては、学校の授業がない土曜日に年間6回の「土曜授業教室」を実施し、夏季休業中には「補習教室」やPTA主催の「自習教室」を実施し			分の意見を発表する場も限られていますが、グループワーク
ラン		シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。		「授業では、話し合い ² 活動や発表する活動	2 70%以上		た。大部分の生徒が前向きに学習に取り組んでおり、 今後も引き続き支援に努めたい。	В 1	1 .	なども取り組まれており良いと 思いました。 ・とても良い結果だと思います。
2 <u> </u>		学習補助員等による算数・数学・英語の補		4	で、友達の意見を聞いたり、自分の考え を伝えたりすることが	2.	4	生徒項目4「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」への肯定的回答は90%であっ			家庭学習の定着という点にもご 指導お願いします。
学 力 の			2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。		できている」	1 60%以上 2 60%以上		た。 対話的な学びによって視野を広げ、理解を深めて、 思考力・判断力・表現力を育成することは、生きた学力			
向 h		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。		に対する肯定的回答の%			の獲得に欠かせない。大田区の中学校では毎年授業 改善推進プランを作成して授業の改善を行い、学力向 上に取り組んでいるが、雪谷中学校では、ICT機器を 利用するなど、特に対話的な学びを取り入れることに			
_			1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		-	1: どちらかが		力を入れている。今後も高い意識をもって学力向上に取り組んでいく。			
		授業の中で、生徒が他者の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりする活動を設	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4		60%未満			D (0	
		定し、思考力・判断力・表現力を育成する。	1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		学校評価アンケート	4:	_	生徒項目5「学校の決まりや集団のマナーを、きちん			・生徒項目5と6の高さは群を抜
	子ども一人と という という という という という という という という という とい	小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校 のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	生徒項目5	1 80%以上 2 80%以上		と守って生活している」への肯定的回答は96%であった。 ほとんどの生徒が学校の決まりや集団のマナーを		,	いていると思います。一方で小さい声も引き続き拾っていける と良いと思います。
		>++ /+ +1 -+- 14:>4+ +1 + + ++ 1	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。		「学校の決まりや集 団のマナーを、きち んと守って生活して			守って生活しており、こうした生徒の意識が、落ち着いた学校の雰囲気を形作っていることがわかる。みんなが決まりやマナーを守っていることにより、生徒たちは	A		・多様化の時代なので、あまり 均一化は好ましくないとは思い ますが、登校時の服装は多少
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を 行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3	いる」 生徒項目6	3:		安心して生活し、自己の伸長に努めることができる。今後も落ちついた生活を送ることができるよう、きめ細かな生活指導に努めたい。		,	ですが乱れがあると感じる子も中にはいました。先生方は良く
プ ラ		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の	1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。		「いじめを許さない気 持ちを持ち、友達と	1 70%以上 2 70%以上		生徒項目6「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」への肯定的回答も96%であった。	B 1	1	対応して下さっていると思います。 ・雪中の生徒は学校で会うとき
ン3		結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4	はお互いを尊重して、仲良く生活することができている」			こちらも、ほとんどの生徒が他者を尊重し、友達と仲良く生活していることがわかる。この項目は、学校生活の基盤として、雪谷中学校が最も重視している取り組			ちんと挨拶をしてくれます。素晴らしいと思います。 ・学校の支援体制は心強いと思
豊		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ	1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。		への肯定的回答の%	2: 1 60%以上	4	みであり、いじめを許さず自他を尊重する姿勢は、あらゆる教育活動を通して繰り返し指導している。また、雪谷中学校の生徒たちが友達を尊重し、明るく穏やかに			います。不登校についても保護者は誰かに相談することがなかなか出来ないという話も耳にし
か な な		の未然防止、早期発見等のための取組を	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4		2 60%以上		生活しようとする姿勢は、ご家庭の教育力の高さにも 支えられている。ご家庭の教育に感謝したい。 同時に、3%の生徒が「どちらかといえばそう思わな			ます。それぞれ事情もあり難しい問題であると思います。
 の 			1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。		-			い」、1%の生徒が「そう思わない」とマイナス回答している現状を真摯に受け止め、人間関係に困っていたり、コミュニケーションに課題のある生徒たちの支援に努め			・登下校の生徒たちの様子を目にすることが多いが、皆マナーを守り、落ち着いているように感
成 成		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・	3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。			1:		たい。学校では、生徒間の諸問題を話題にした連絡会を毎週行うなど、教員間の情報共有を密にすることに取り組んでおり、いじめや人間関係トラブルの早期発見に努め、組織的に解決を図る態勢を作っている。今後も組織的にいじめの解消に取り組み、100%の生徒が安心して生活できる学校づくりに努める。		活 な て	じた。 ・学校生活やこれからの社会生活においてマナーはとても重要
			1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。			どちらかが 60%未満					なことです。あらゆる活動を通して繰り返し繰り返しご指導お願いたします。
		苦手な分野があったり、支援が必要な生徒	4:月1回以上実施した。 3:学期に2~3回(年間6回)以上行った。						D (0	0.0.750 to 3 °
		に関する連絡会議を定期的に実施する。	2:学期に1回(年間3回)以上行った。 1:実施しなかった。	4							
プラ	しが、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を 通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	1	学校評価アンケート	4: 1 80%以上 2 80%以上		生徒項目7「『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気を付けて生活している」への肯定的回答は81%	Λ -	_	・部活動の時間がコロナ前のようにとれないのが残念です。また、先生方への負担もあり、以前の状態に戻すのは難しい
レ 4		通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒項目7 「『早寝・早起き・朝ご 」はん』に取り組む、進			であった。 毎朝の健康チェックカードに、体温や体調とと	A	1	でしょうか?行事に関しては子どもたちが協力して熱心に取り組んでいる姿が見られました。 ・部活動で成果が出ていると思います。
 体		柏艮相等及び教科寺にありる相等を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4	んで体を動かすなど、自分の健康に気	3: 1 70%以上 2 70%以上		もに起床時間・就寝時間・朝ごはんを食べたか を記入させ、生徒が自分の生活を意識できるよ う取り組んでいる。8割弱の生徒が達成できてお	В	2	・「早寝・早起き・朝ごはん」のチェック カードへの記入は自分の生活習慣を確 認することにとても効果的だと思います。
カ の		育」を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		を付けて生活している」		4	り、ご家庭の教育に感謝したい。学校でも引き続き、健康な体づくりに向けて指導を行っていく。		7	・まだまだ制限がある中での部活動や学校行事にも、とても熱心に取り組む姿を 見ることができ、応援していきたい。 ・コロナ禍で活動時間が制限される中で
IP 上 		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。	4	生徒項目8 「部活動、学校行事 等に積極的に参加し	2: 1 60%以上 2 60%以上		生徒項目8「部活動、学校行事等に積極的に参加している」への肯定的回答は92%であった。 部活動に参加している生徒は熱心に活動して	C		立派な成果をあげられることは生徒さんの努力の賜ですね。自分のできることを 精一杯やろうとする姿は褒めてあげたい
C 健 唐		る。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。		ている」	1 ·		おり、コロナ禍で活動時間の短縮などの制限があった中、立派な成果を多くあげている。学校行			です。
次 の 増		全教員が部活動や委員会活動を担当し、自分から動く姿勢や日常的に体を動かす	4: 主教員で175/2。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	4	への肯定的回答の%	どちらかが 60%未満		事でも、活動時間の短縮やマスクの着用などの制限を守りながら、自分のできることを精一杯やろうとする姿が見られた。今後も、生徒が少しで		0	
進一		習慣を身に付けさせる。	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		学校評価アンケート	4:	_	も充実した体験ができるよう活動を工夫していきたい。 生徒項目9「授業は映像や図で見せるなど、工夫が			・授業で多くの工夫があると聞
ノラン		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4	生徒項目9	1 80%以上 2 80%以上		あってわかりやすい」への肯定的回答は92%であった。 良い教育環境としてまず重要なことは「授業がわかり やすい」ということである。雪谷中学校では、生徒によ	A 6	6	いています。 ・生徒項目9についてはとても 良いと思います。生徒項目10
5	児童・生徒が 安全・安心に		1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。		「授業は映像や図で 見せるなど、工夫が あってわかりやすい」	3:		る授業アンケートを実施し、「わかりやすい授業」づくりに努めている。9割の生徒が「授業がわかりやすい」と回答しており、実践の成果が見られる。今後も引き続き			については個人差があると思います。担任の先生によっても違
魅力	学校ため指とでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を 実施しOJTを充実させる。	2. 学期に1回(年間2回)以上行った	3	生徒項目10	1 70%以上 2 70%以上		「わかりやすい授業」づくりに努める。 生徒項目10「困ったことがあるときは、先生に悩みを	В	3	うと思うのでクラスによってばら つきがでないよう担任以外にも 相談できるとよいと思います。
ある		ノルビンショでプロ大でにつ。	1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		「困ったことがあると きは、先生に悩みを 話したり、相談でき	2:	3	話したり、相談できる」への肯定的回答は70%であった。 教員と生徒との相互の信頼関係を確率するよう取り			・トラブルの相談先として学校以外の相談機関の紹介はとても 有効だと思います。
教育		各種研究発表会等の研究·研修の成果 を、自身の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3	る」	1 60%以上 2 60%以上		組んでいるが、SNSのトラブルなど、大人に話しにくく、 関係が悪化してから先生に相談するケースも見られた。相談には丁寧に対応するとともに、重大な悩みを	c	_	*ますます実践の成果が見られるようお願いいたします。
環			1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。		への肯定的回答の%	1:		自分一人で抱え込むことがないよう、学校外の相談機 関の紹介も行っている。			
づく:		校内委員会等を確実に実施し、学校にお ける特別支援教育を推進する。	3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。	4		どちらかが 60%未満			D	0	
リプ			1:実施しなかった。 4:月1回以上更新した。		学校評価アンケート	4: 1 80%以上		保護者項目11「学校は、学校の情報を保護者・地域に伝えている(学校だより、学年だより、HPな			・職場体験が実施できたことはとても良かった。今後もボランティア活動や地域
ラ	学校・家庭・地域が担う役割などを明確	基本情報、児童・生徒の活動情報等をホー	2:学期1回以上更新した。	4	保護者項目11 「学校は、学校の情	2 80%以上		ばに伝えている(子校たより、子中たより、FPなど)」への肯定的回答は99%であった。 今年度は、感染症拡大防止対策をしつつ、保護者の方々が学校を訪れる機会を少しずつコロナ以前	A	6	社会との関わりをもつ活動に期待したい。また、支援したい。 ・コロナ禍ではなかなか難しかったので
な6つて営		地域教育連絡協議会において、児童・生徒	1: 更新しなかった。 4: 毎回情報を提供した。		報を保護者・地域に 伝えている(学校だよ			の方々か学校を訪れる機会を少しすつコロテ以前の状態に戻しつつある。学校HPで生活の様子を発信するなど、学校からの情報発信に努めた。引き続き、ていねいな情報発信を心がけたい。		-	はないでしょうか。今後に期待します。P TAとしてはもう少し、生徒とのコラボがし たかったです。 ・雪中Blogは保護者にとってとっても楽
- '' '	開かれた教	の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、 適正な評価を受けるよう努める。	3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。	4	り、学年だより、HPな ど)」	2 70%以上		保護者項目12「学校では、地域社会の一員として	В	3	しみな情報です。素晴らしいと思います。 ・学校側からの発信はとても丁寧にして 下さっていると思います。保護者からそ
も・ に家 谁庭	目指します。 目指しますの また、相互の 連携を深め、 子どもを育て る仕組みを作		1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った	3 会 覚 	保護者項目12 「学校では、地域社 会の一員としての自 覚を持たせるような 活動を行っている」	2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが	4	の自覚を持たせるような活動を行っている」への肯定的回答は80%であった。 現在はまだ地域に出て活動することが少ないが、		-	の情報を受け取らなかったり、関心を寄せていなかったりしていることが多いのではないかと懸念しています。 ・コロナの影響でなかなかイベントを行う
進 め・ る地		え力を生かした特色ある教育活動を実践 │ ゚ ゔる。	3:字期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。					徐々にコロナ以前の状態に戻りつつある。校内で 実施できるボランティア活動を生徒会を主体として 生徒自身が考えて実施した。また、今年度は職場	C	0	ことが難しいですが、今後とも自治会へのご協力をお願いします。 ・学校HPで積極的に情報公開されてい
 教域 育が		「学校だより」「学年通信」等を通して、学校	4. 日1同じ上宝族した		に対する肯定的回答			体験を実施し、久しぶりに生徒に良い体験をさせることができたことは成果と考えている。今後も教育活動を工夫し、生徒の体験を充実させていきたい。		•	ると思います。 ・コロナ禍でできなかった地域とのつなが りができて良かったと思います。職場体
F が 一 体	ります。	の情報を保護者に伝え、学校と家庭の連携を図る。	3: 字期に2~3回美施した。 2: 学期1回以上実施した。 1: 実施しなかった。	4	の %	60%未満			D (J (験や大人とのつながりは社会に出る前 の大切なことの授業ですので、たくさんの 体験・経験をしてほしいいと思います。
I/T\			・・人が近しなり、フルー。								